



源氏朝葉卷

種秀行
國貞

花譜



13
3090
11





胡蝶
源氏
而
而

廿一篇上

へ13
3090
11



八百善で美人魚類と異濱より揚るよやうねど風味別あ
 る如くと思ふに全く暖簾の徳あんといふ人ありしが左舟
 合巻も近年の紅英堂の梓ありぬば有官が愛のうは是
 る暖簾の徳といふと刻成迫の主人が丹情余取の書肆と
 大に異なり故に此史の如く拙き中の拙作も魚を申
 さば二日賣されど仕立の割意は他家の及ぬ所あり配りの
 難が賣切を断る程の事と聞随は此編前編の豆ぬを
 補ひ山谷の事を専ら記せしる山谷といふ字も八百善を
 思ひ寄き此席とあり

柳亭一白翁

三十一





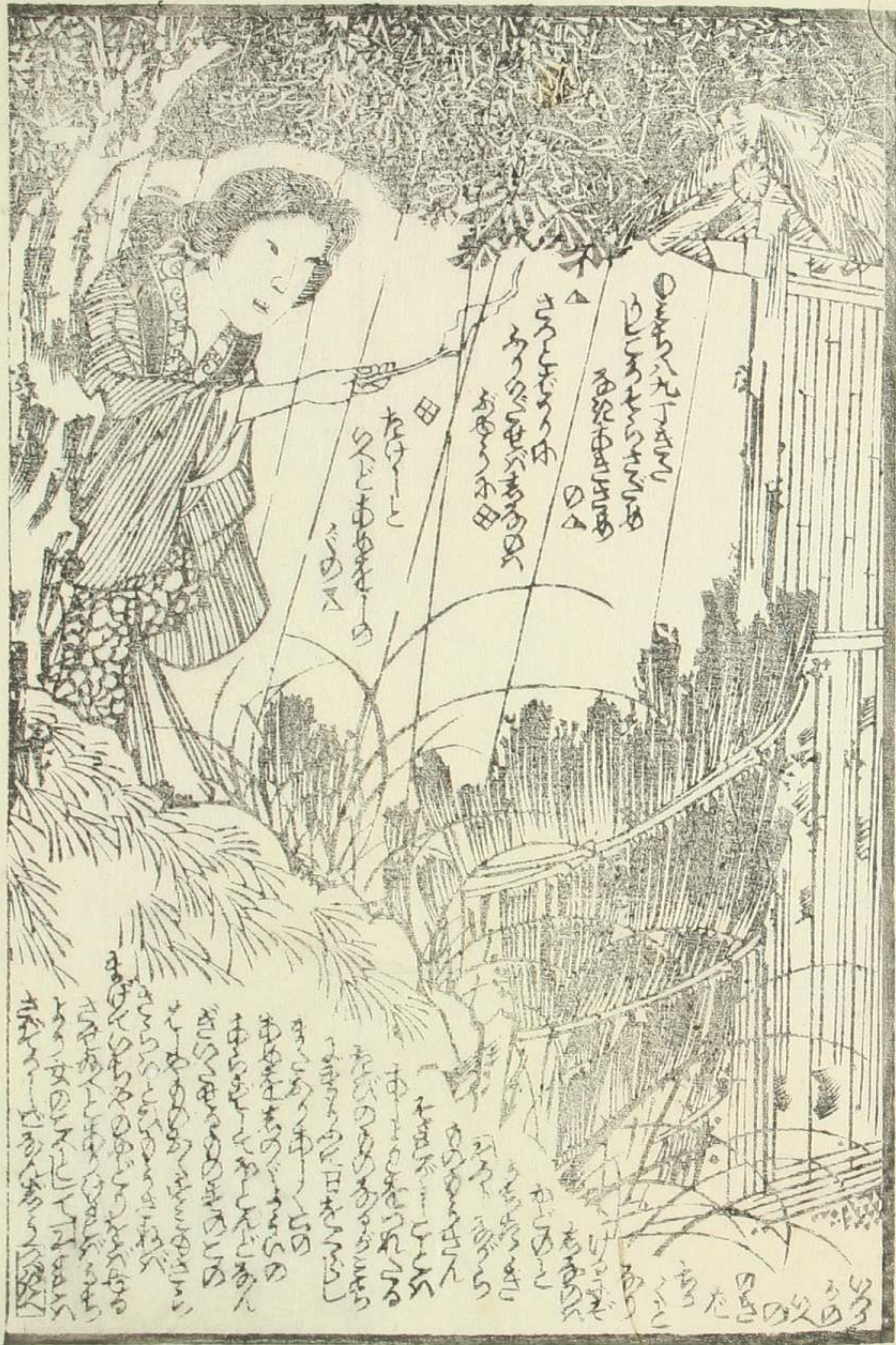
義忠太



乙骨
細次郎

廣沼
信濃





此の女は... 此の女は... 此の女は... 此の女は...
 此の女は... 此の女は... 此の女は... 此の女は...
 此の女は... 此の女は... 此の女は... 此の女は...



此の女は... 此の女は... 此の女は... 此の女は...
 此の女は... 此の女は... 此の女は... 此の女は...
 此の女は... 此の女は... 此の女は... 此の女は...

三



あまのうつつに
 ながれし雨も
 ちかぢかと
 降りてゆく
 空は
 雲も
 なく
 月も
 なく
 星も
 なく
 風も
 なく
 草花も
 なく
 鳥も
 なく
 虫も
 なく
 人も
 なく
 何もない
 世界
 がある

あまのうつつに
 ながれし雨も
 ちかぢかと
 降りてゆく
 空は
 雲も
 なく
 月も
 なく
 星も
 なく
 風も
 なく
 草花も
 なく
 鳥も
 なく
 虫も
 なく
 人も
 なく
 何もない
 世界
 がある

あまのうつつに
 ながれし雨も
 ちかぢかと
 降りてゆく
 空は
 雲も
 なく
 月も
 なく
 星も
 なく
 風も
 なく
 草花も
 なく
 鳥も
 なく
 虫も
 なく
 人も
 なく
 何もない
 世界
 がある



あまのうつつに
 ながれし雨も
 ちかぢかと
 降りてゆく
 空は
 雲も
 なく
 月も
 なく
 星も
 なく
 風も
 なく
 草花も
 なく
 鳥も
 なく
 虫も
 なく
 人も
 なく
 何もない
 世界
 がある

あまのうつつに
 ながれし雨も
 ちかぢかと
 降りてゆく
 空は
 雲も
 なく
 月も
 なく
 星も
 なく
 風も
 なく
 草花も
 なく
 鳥も
 なく
 虫も
 なく
 人も
 なく
 何もない
 世界
 がある

あまのうつつに
 ながれし雨も
 ちかぢかと
 降りてゆく
 空は
 雲も
 なく
 月も
 なく
 星も
 なく
 風も
 なく
 草花も
 なく
 鳥も
 なく
 虫も
 なく
 人も
 なく
 何もない
 世界
 がある

あまのうつつに
 ながれし雨も
 ちかぢかと
 降りてゆく
 空は
 雲も
 なく
 月も
 なく
 星も
 なく
 風も
 なく
 草花も
 なく
 鳥も
 なく
 虫も
 なく
 人も
 なく
 何もない
 世界
 がある

あまのうつつに
 ながれし雨も
 ちかぢかと
 降りてゆく
 空は
 雲も
 なく
 月も
 なく
 星も
 なく
 風も
 なく
 草花も
 なく
 鳥も
 なく
 虫も
 なく
 人も
 なく
 何もない
 世界
 がある



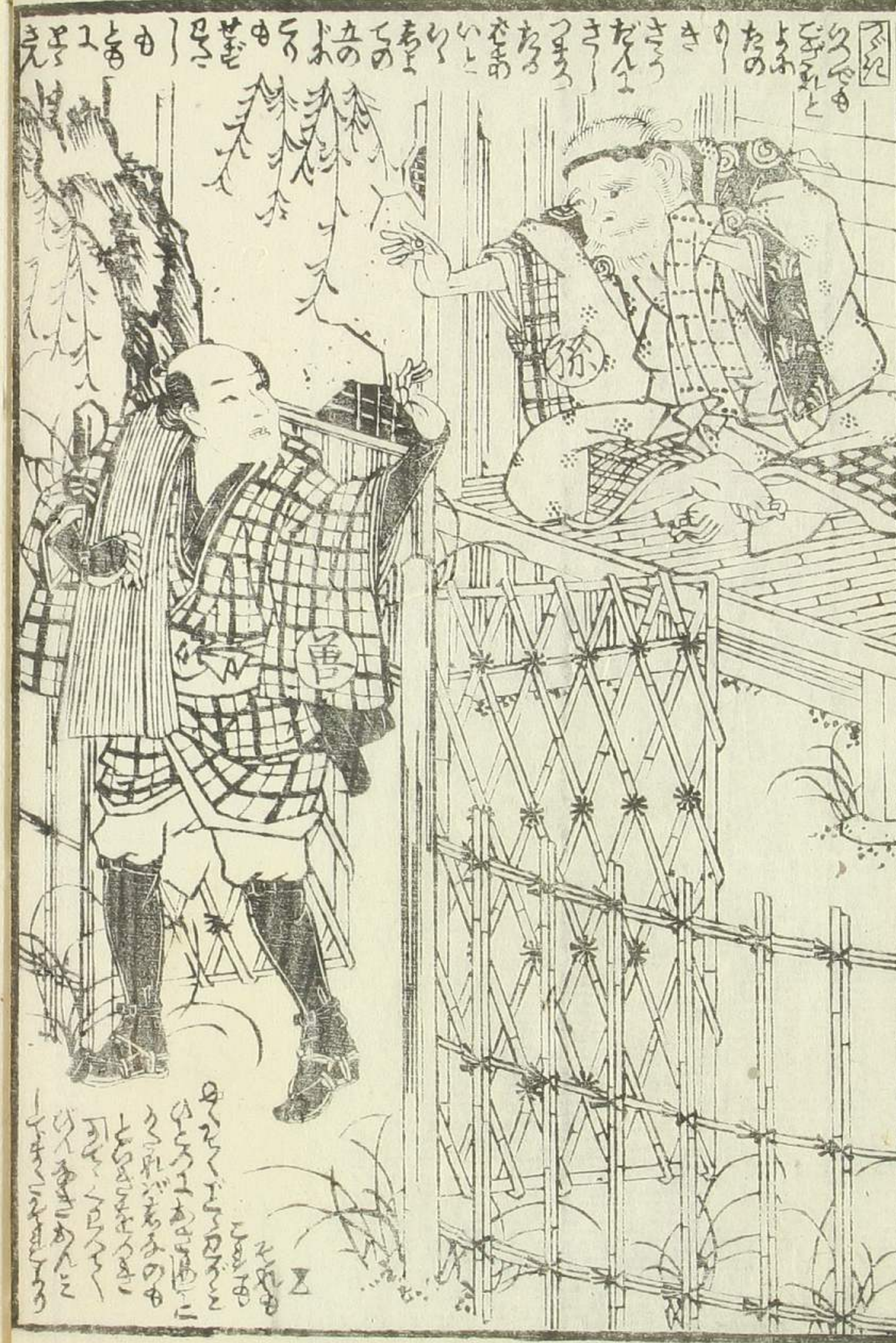
此の如くは...
 世に於ては...
 人の心は...
 ことごとく...
 なるべし...
 此の如く...
 世に於て...
 人の心は...
 ことごとく...
 なるべし...

此の如くは...
 世に於ては...
 人の心は...
 ことごとく...
 なるべし...
 此の如く...
 世に於て...
 人の心は...
 ことごとく...
 なるべし...



此の如くは...
 世に於ては...
 人の心は...
 ことごとく...
 なるべし...
 此の如く...
 世に於て...
 人の心は...
 ことごとく...
 なるべし...

此の如くは...
 世に於ては...
 人の心は...
 ことごとく...
 なるべし...
 此の如く...
 世に於て...
 人の心は...
 ことごとく...
 なるべし...



くまのしんご
よふのうら
あまのきり
さくらの
たんご
くまの
さくらの
たんご
あまのきり
よふのうら
くまのしんご

くまのしんご
よふのうら
あまのきり
さくらの
たんご
くまの
さくらの
たんご
あまのきり
よふのうら
くまのしんご



くまのしんご
よふのうら
あまのきり
さくらの
たんご
くまの
さくらの
たんご
あまのきり
よふのうら
くまのしんご

くまのしんご
よふのうら
あまのきり
さくらの
たんご
くまの
さくらの
たんご
あまのきり
よふのうら
くまのしんご



あはれ... 大... 助... 大...

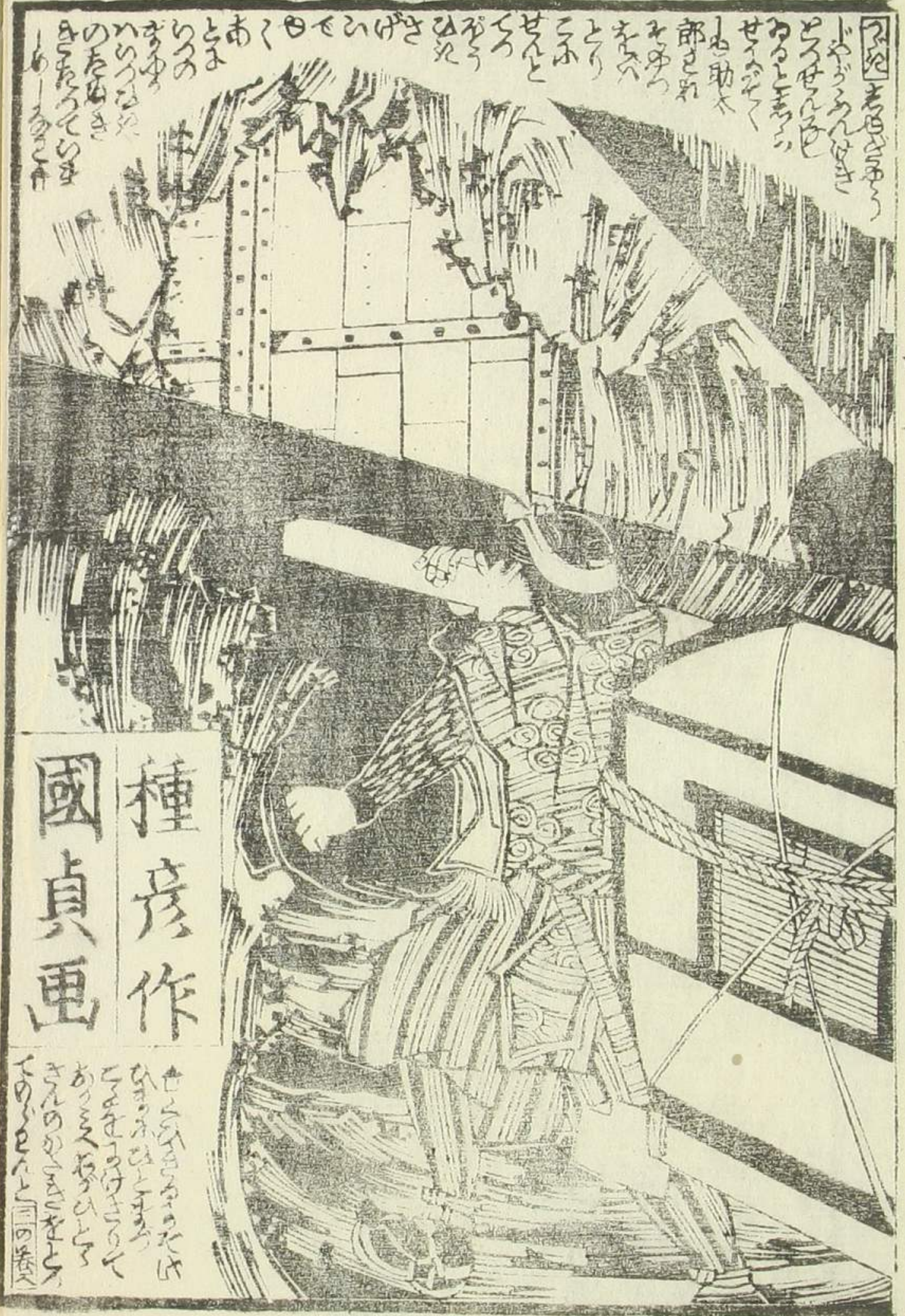
あはれ... 大... 助... 大...

あはれ... 大... 助... 大...



あはれ... 大... 助... 大...

あはれ... 大... 助... 大...



種彦作
國貞画

種彦作
國貞画
この巻は三巻入

柳蔭月朝妻

十編
大尾

山々亭有人作
梅朝樓國貞画

藪黄鷄八幡不知

十編
大尾

山々亭有人作
錦朝樓芳席画

阿玉ヶ池櫛月形

五編
大尾

為永春水作
梅堂國貞画

八犬傳犬の奴紙

六十編
大尾 國政画

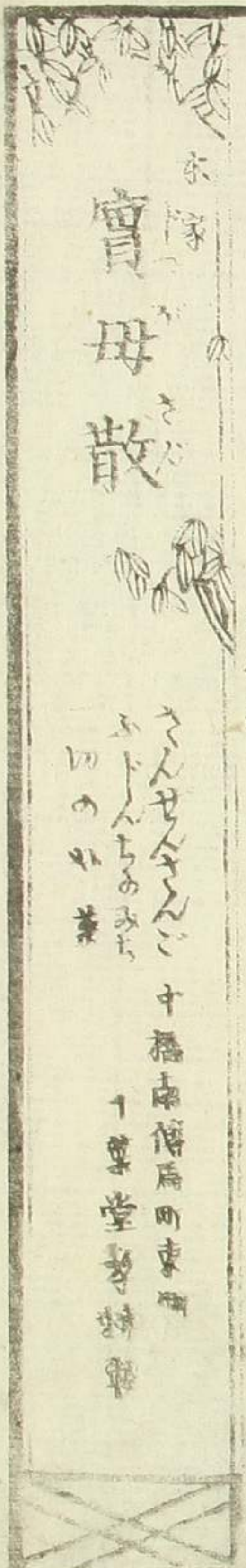
小學行儀法

全一冊

寶母散

さんせんさんご
ふとんちのみち
切のれ葉

十編
梅堂國貞画

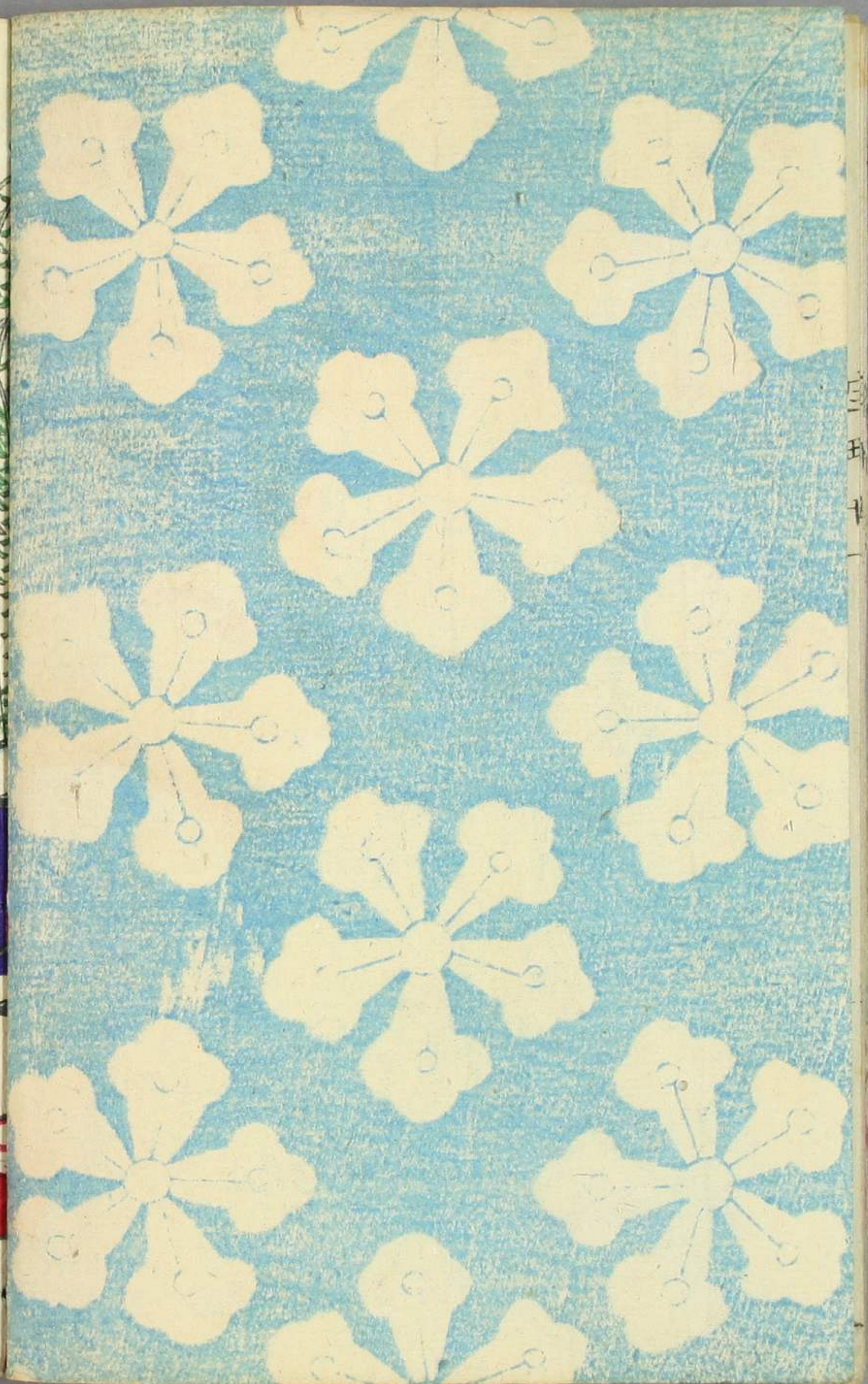




種
久
他

園

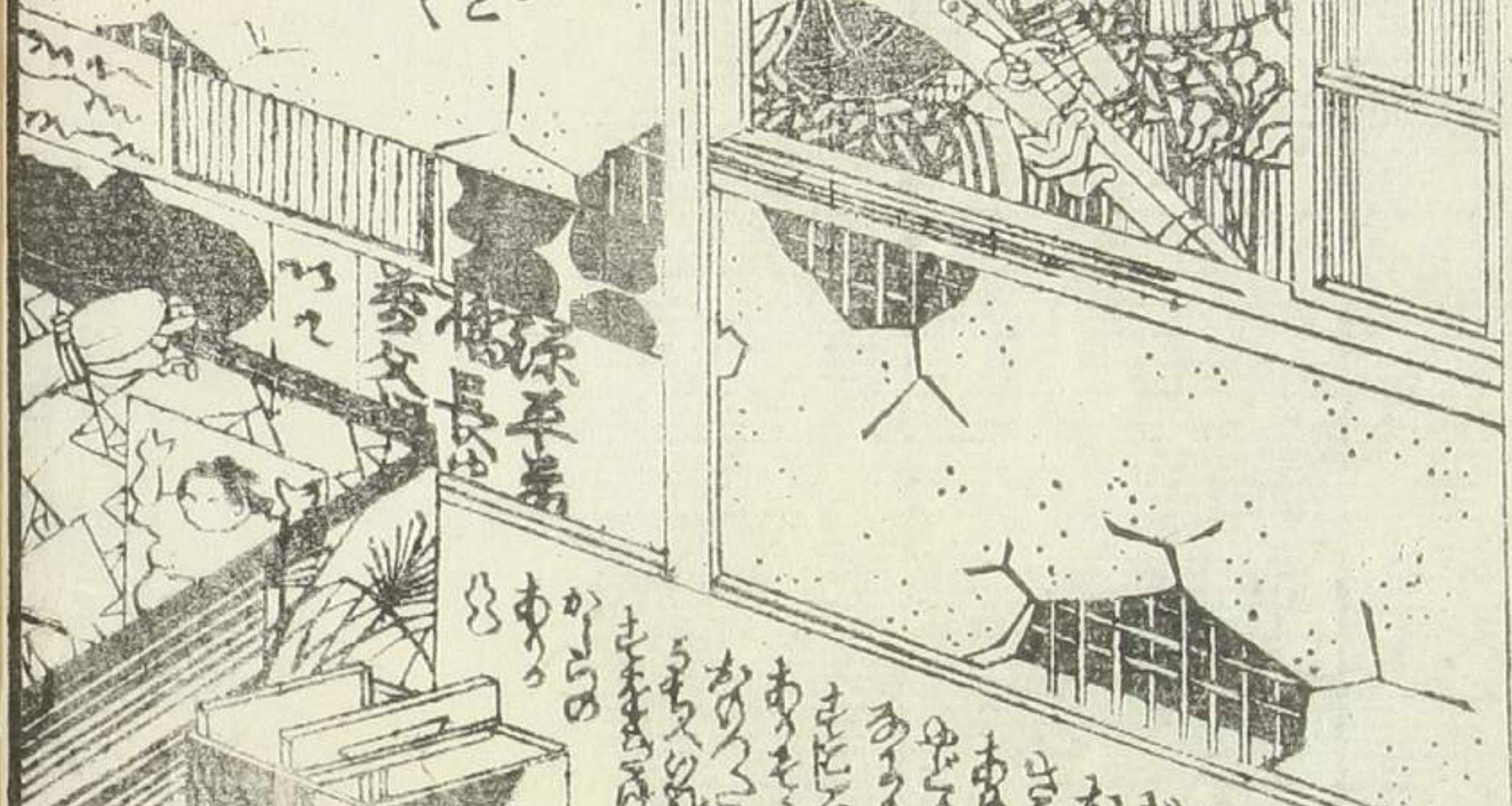
廿一巻下



三
五
十



あつちのうらやまにやうやうと
からぬかぬかおやうやうと
そのおねのけりやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと



あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと



あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと
あつちのうらやまにやうやうと

1. The first part of the manuscript is a collection of various notes and observations, written in a dense, cursive script. It begins with the word "Brevi" and continues with several lines of text, interspersed with small sketches and diagrams. The notes appear to be related to botany or natural history, as evidenced by the sketches of plants and insects.

2. A significant portion of the manuscript is dedicated to a detailed botanical illustration of a plant with a long, slender stem and a large, bulbous root system. The plant is shown in a natural setting, with leaves and a small insect perched on one of them. The drawing is highly detailed, showing the texture of the leaves and the structure of the root.

3. The text surrounding the illustration is written in a similar cursive script, providing a detailed description of the plant's characteristics, its habitat, and its uses. The notes are arranged in columns, with some text placed directly adjacent to the corresponding parts of the illustration.

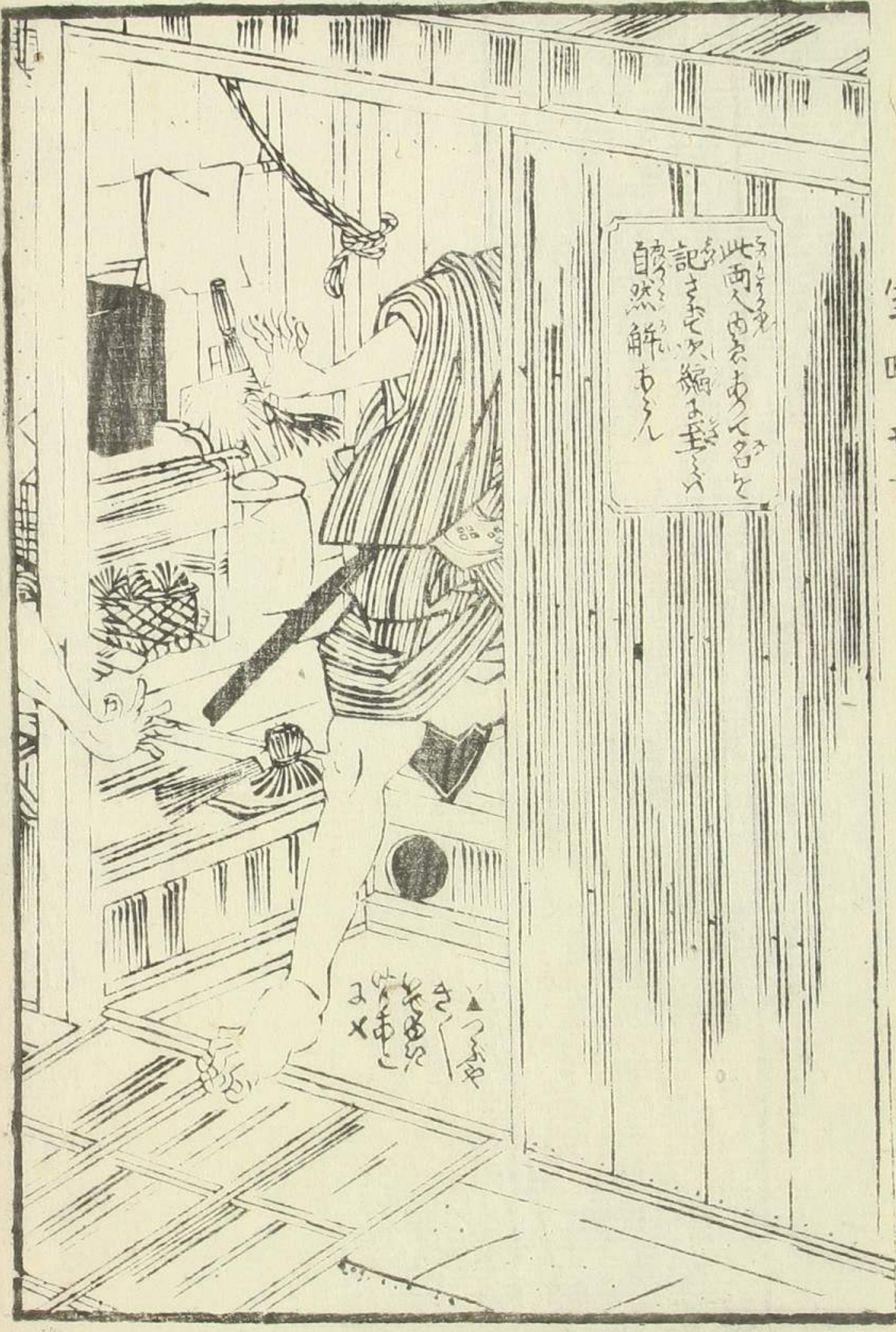
4. At the bottom of the page, there is a small table or list of entries, each accompanied by a small sketch or drawing. These entries appear to be related to the main botanical study, possibly listing different varieties or related species.

The second page of the manuscript features a large, detailed illustration of a person, likely a woman, in traditional Japanese attire. She is shown in a seated or kneeling position, holding a long, thin object, possibly a musical instrument or a tool. The illustration is highly detailed, showing the intricate patterns and textures of her clothing.

Surrounding the illustration is a large amount of text, written in the same cursive script as the first page. The text appears to be a detailed description or commentary on the person or the activity depicted in the illustration. The notes are arranged in columns, with some text placed directly adjacent to the corresponding parts of the illustration.

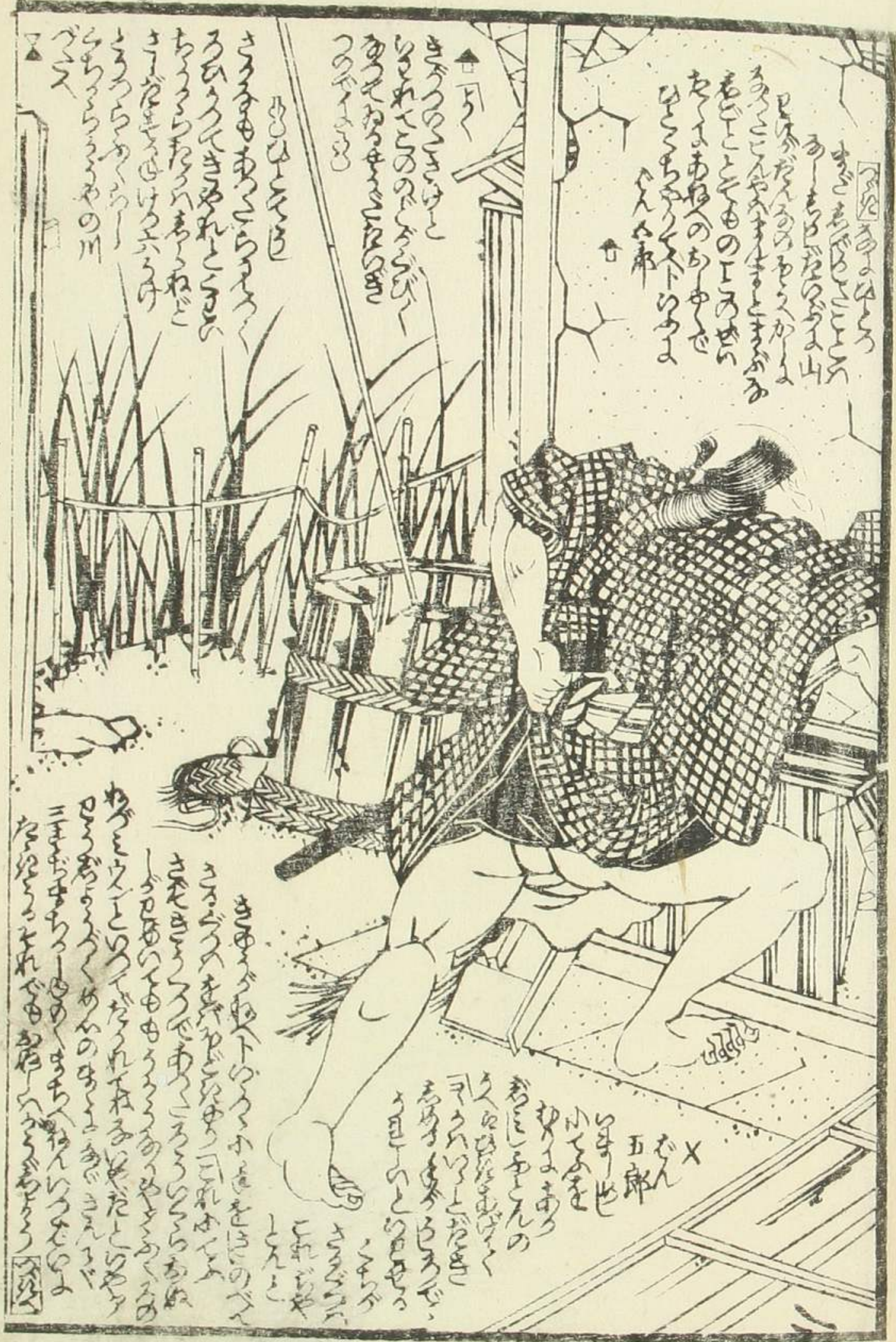
At the bottom of the page, there is a small table or list of entries, each accompanied by a small sketch or drawing. These entries appear to be related to the main study on the person, possibly listing different variations or related figures.





此西人の名を
記すは編み
自然解もえ

五郎
心
X



此西人の名を
記すは編み
自然解もえ

五郎
心
X



▲入丁のまの... (The main text in the right column, written vertically in kuzushiji style, describing the scene and characters.)
此の... (A specific reference or title for the scene.)
信濃夫婦... (Mention of the 'Shinano couple').
北小... (Reference to 'Kita-koto').
出仕... (Reference to 'shu-shi' or attendant.)
先景... (Reference to 'saki-kei' or foreground.)
引上... (Reference to 'hiki-ue' or lifting up.)



此の... (Text located below the illustration on the left page, continuing the narrative.)
出仕... (Text identifying the roles or names of the characters.)
先景... (Text describing the scene or setting.)
引上... (Text describing an action or scene element.)
▲入丁のまの... (A reference to the main text on the opposite page.)



柳亭綴
國貞画

厚化粧萬年嶋田
十編種彦作
大尾國貞画

新島九尾傳
十編種彦作
大尾國貞画

室町源氏胡蝶卷
十編種彦作
大尾國貞画

筆海四國聞書
十編種彦作
大尾國貞画

鼠祠通夜譚
十編種彦作
大尾國貞画

月鴉墨画廻補襠
十編種彦作
大尾國貞画

童謡妙々車
十編種彦作
大尾國貞画

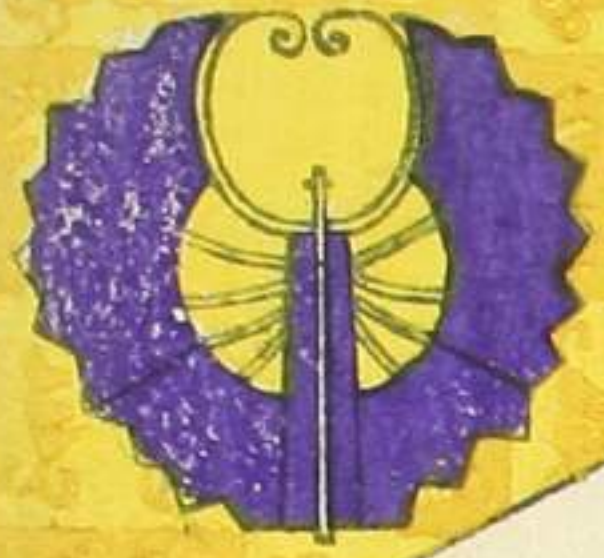
花封誓玉章
十編種彦作
大尾國貞画

薄保幼日記
十編種彦作
大尾國貞画

七知事島節譚
十五種彦作
大尾國貞画

京橋原南傳馬町書丁日二番地
出板
林吉藏





豊国通

小梅巻

禮方化

豊国通



小梅





三十二篇上

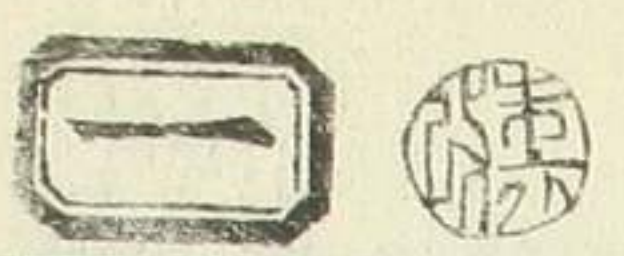


玉町源氏可憐
 卷柳 種之良
 他梅 晴鳥圖
 上

或時故小團治丈（様是る幕小狂言の祝玉也）
 出るといふと看官ハ小團治丈が煮井より出ると
 名ハ三歳兒もあつたが折をりて種彦も依名を
 唯の關の扉法依者をおさ義共思ぬ 出雲が佳也
 九太夫の椽の下あつたりし人母をいふとあれ
 嘆とく水各月法行法もに秋のこゝろ

柳の種彦

卷柳廿二





北小路通氏

廣沼信濃



足利義滿





あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

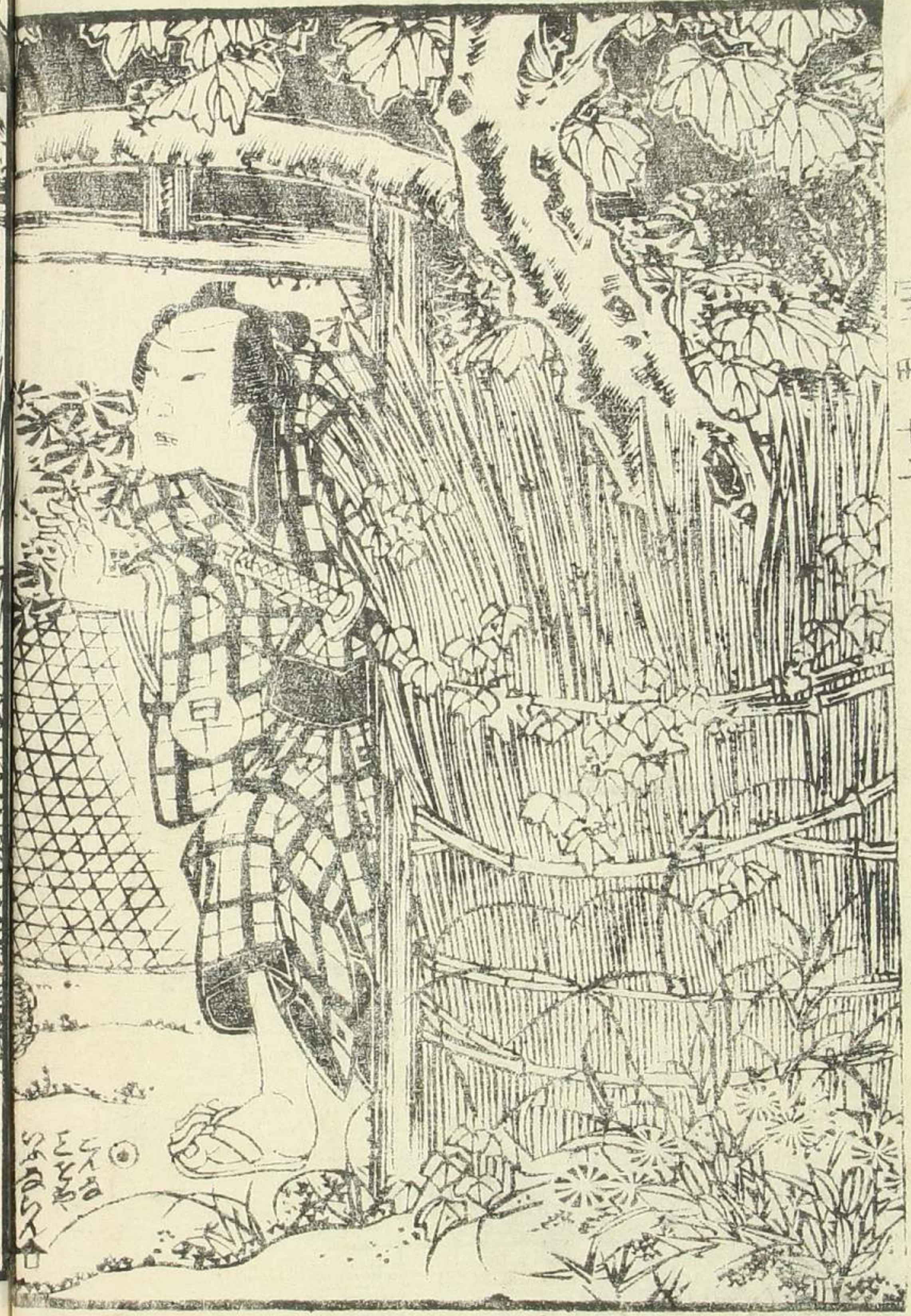
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



Handwritten text in the upper left corner of the left page, including the word "MORNING" and several lines of cursive script.

Handwritten text in the lower left corner of the left page, including the character '氷' (ice) and several lines of cursive script.



Vertical handwritten text on the right edge of the right page.

Small handwritten text located at the bottom of the right page.

Handwritten text in the upper right section of the right page, likely a preface or introductory notes.



Handwritten text in the lower right section of the right page, providing commentary or a description of the scene.

Handwritten text in the upper left section of the left page, continuing the narrative or commentary.



Handwritten text in the lower left section of the left page, providing further details or commentary.

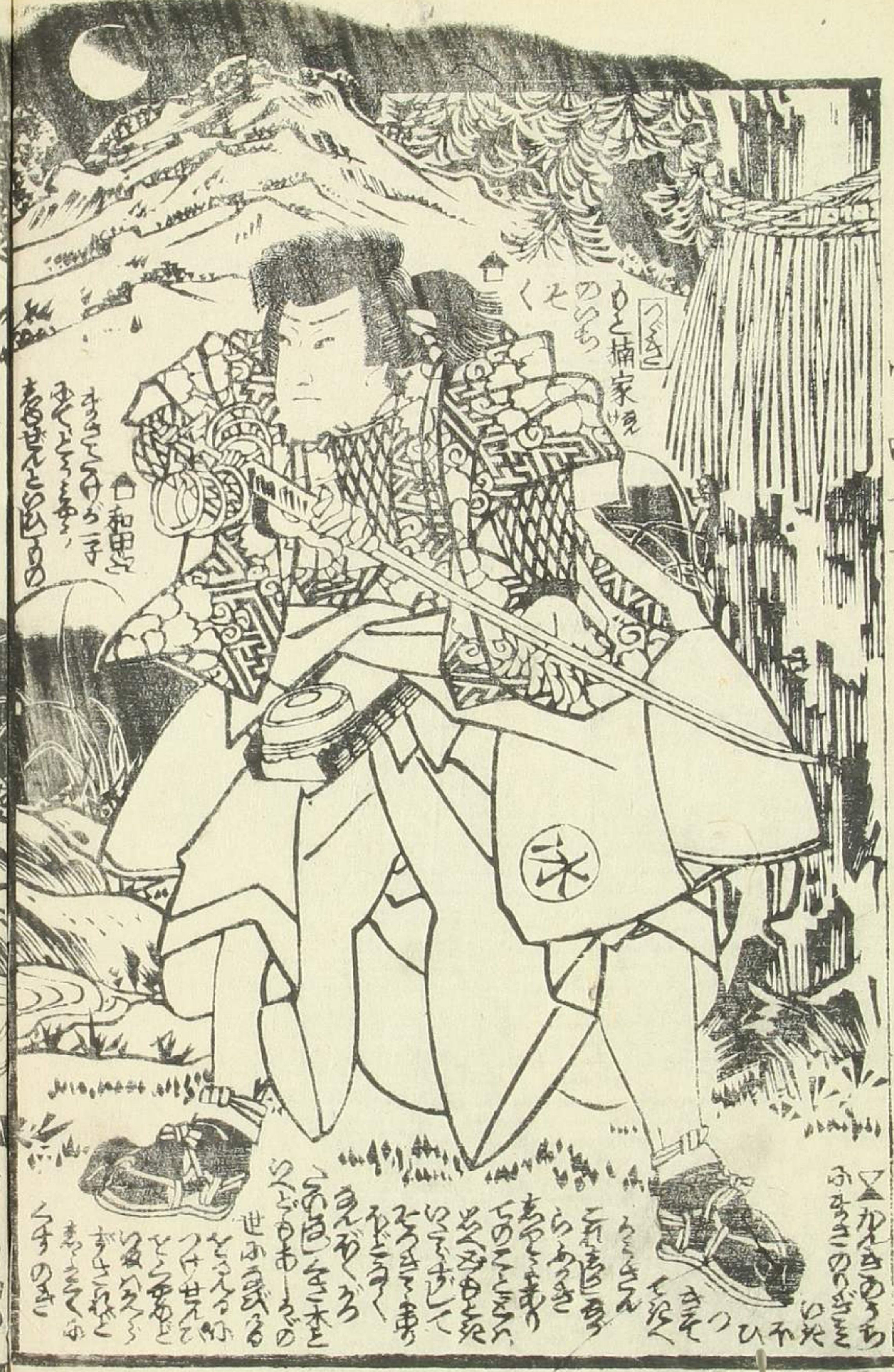


この氷三が物
語めとらる

あひの
ふけう
をらる

あひの
ふけう
をらる

あひの
ふけう
をらる



あひの
ふけう
をらる

あひの
ふけう
をらる

あひの
ふけう
をらる

あひの
ふけう
をらる



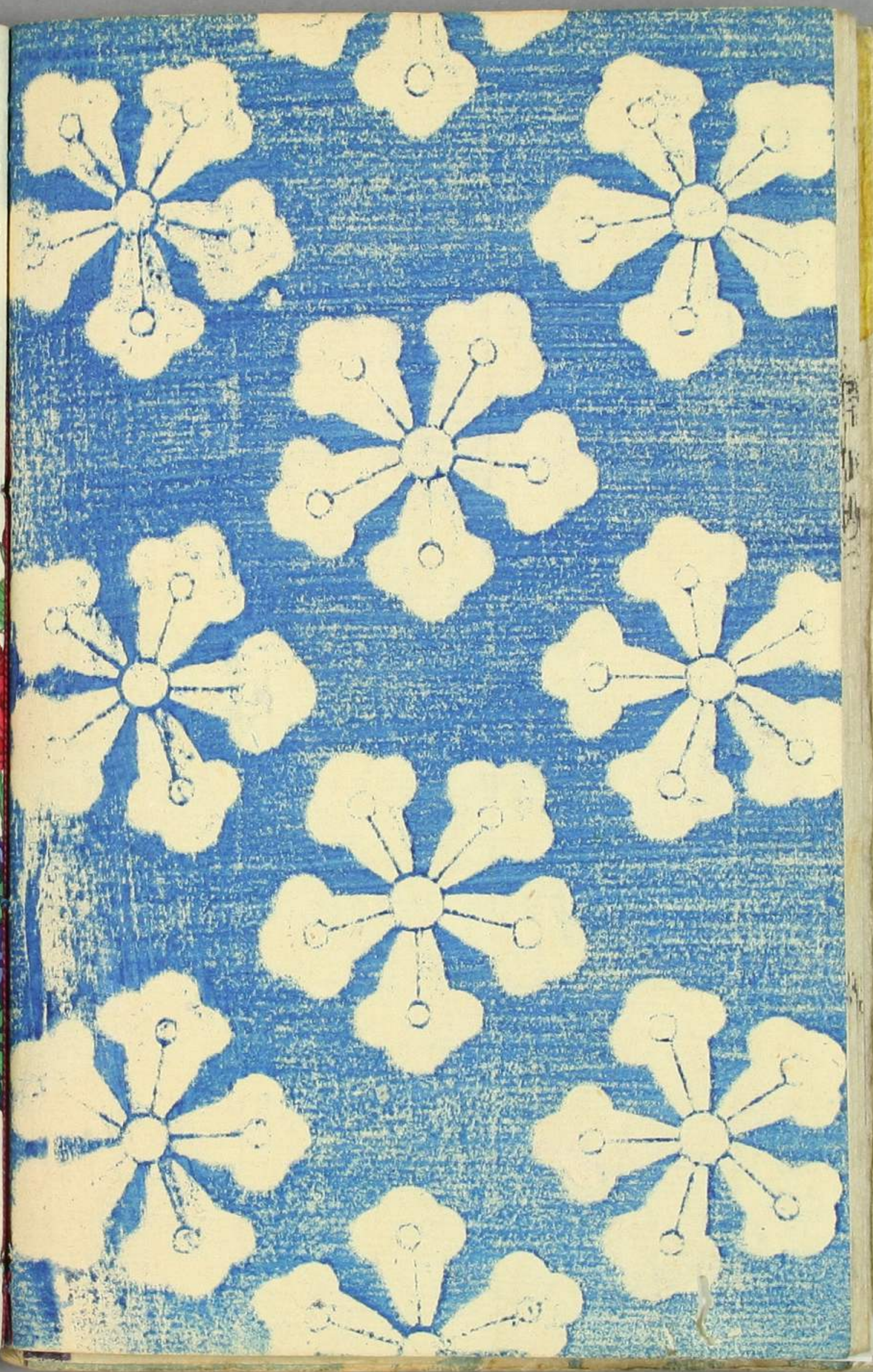
胡了乃

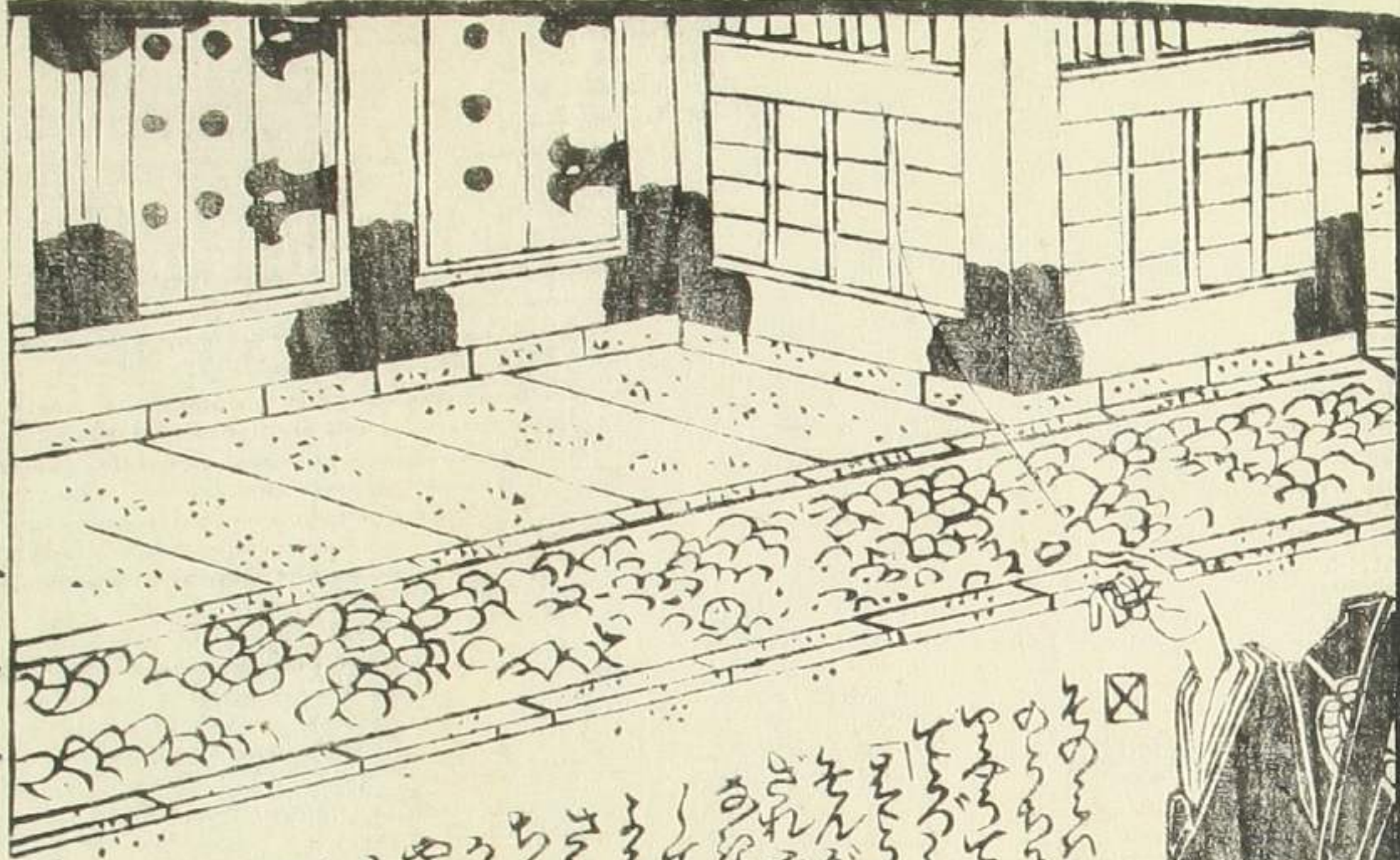
室

種彦作

豊之因典

二十三番下





Vertical columns of handwritten Japanese text on the left page, including a large square seal at the bottom left.



Vertical columns of handwritten Japanese text on the right page, including a large square seal at the bottom right.

あまのこ
あまのこ
あまのこ



あまのこ
あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ
あまのこ



あまのこ
あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ
あまのこ



